

みどりみらい 2nd SEASON ぐんじとしのりの議会報告

2006/02/15 Vol. 80 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX 45-8362
E-MAIL ID / mmirai@kitemachi.com

印西市議会/平成 17 年第 4 回定例会報告 (6)

～ 印西市の社会福祉を語る (4)

いつもお世話になっております。印西市議会第4回定例会(12月議会)は、12月16日(金)までの日程で行われ、閉会しました。今回も引き続き、12月議会での私からの一般質問、市執行部からの回答を中心に報告していきたいと思っております。(紙面の都合で、内容を抜粋して記載させていただきます。)

12/6(火曜日)に、代表質問に立ちました。

以下、市当局の回答です。

1. 印西市が目指す社会福祉の方向について

社会福祉の基礎構造改革が進み、行政から与えられる福祉から権利としての福祉、人権尊重の福祉へと大きく転換しようとしています。介護・子育ての社会化、障害者の社会参加の一層の促進など社会保障の拡充・充実は大きな社会的な課題となっています。自己の生活のあり方を自分で判断し、決定し、行動していくことは人間として当然の、人としてあるべき生き方といえます。すべての市民が健康で文化的な、そして生きがいを持って安全に暮らしていける地域社会、住みなれた地域で主体的に自立した生活ができる高福祉の地域社会、これらを実現するためには、印西市では具体的にどのような施策を策定し、実行していくのだろうか。

(3) 障害者自立支援法が成立し、今後、印西市でも「障害福祉計画」の策定に向けての作業が開始されます。一方、この法律の施行に多くの怒りや不安の声が聞こえてくる。印西市では現状をどのように把握し、今後の障害者施策を行なっていくつもりか。

- 3 - 1 印西市内に居住する障害者が自立して生活できる環境は整っているか。
- 3 - 2 印西市内に居住する障害者はどのような形態での就労を行っているか。

(回答/市長) 先の国会において成立いたしました「障害者自立支援法」の趣旨は、平成 15 年度に施行されました支援費制度では、利用者の立場に立った制度を構築するための障害者福祉サ - ビスの見直しが図られ、新たにサ - ビスの利用者が増え、地域生活支援が前進したものでありますが、しかし、新たな利用者の急増に伴い、サ - ビス費用も増大し、国や自治体の財源確保が大きな問題となりました。また、全国共通のル - ルがないため、市町村の財政力格差により、地域におけるサ - ビス提供体制が異なるなど、障害者が地域で普通に暮らせるための基盤が十分整備されていないことが、課題となっております。

このようなことから、当該自立支援法では、利用したサ - ビスの量に応じて、利用者などから世帯等の所得状況に応じた公平な負担を求めること。また、支援を必要とする障害者の現状を把握し、支援の度合いに応じて、サ - ビスが公平に利用できるよう、市町村において審査会を設置し、サ - ビス基準の透明化、明確化を図ることなどが位置付けられております。

本市における障害者福祉施策について、現状では、個々の障害者の支援の必要度に応じてサ - ビスの提供がなされておりますが、自立した生活環境は、まだ不十分であると認識しておりますので、今後、障害者基本計画等により、整備していきたいと考えております。

次に、(3)の についてでございますが、障害者の就労形態については、十分な把握はしておりませんが、今年度から、本市に地域に密着した障害者就労支援施設として、NPO法人団体の支援による「心身障害者小規模福祉作業所」が設置されました。(ぐんじ注/「コスモス」という名称で印西市総合福祉センター内にあります。) 当該福祉作業所は、市内から障害者が通所し、指導員からの作業工程を学びパンやクッキー - づくりなどを行い、現在、近隣のス - パ - 、市役所等において販売いたしております。

今後、障害者がその能力や適性に応じて、より力を発揮できる社会づくりを目指すための施策を検討していくかねばならないと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

（ぐんじとしのりより市民の皆様へ）

今年最初のこの紙面にて、「障害者自立支援法」について少々述べさせていただきました。私はこの法律は理念としては間違っていないのだらうと思ってます。しかし、市長の答弁にもあったように多くの問題を抱え、即実施すべきものではないと考えています。今回、質問に対する回答からは、障害者が地域で普通に暮らせるための基盤は印西市では現在、十分に整備されてないこと。法律ができたが、障害者の暮らしは理念が目指した姿になるためには印西市では時間がかかるということを露呈しています。

いくら理念がよくても生活できなければどうしようもありません。自立するためにはなんといいっても収入が必要です。必要な収入を得るためには働ければ働くのが早道だと思いますが、障害者の雇用もままならない印西市ではどうやって暮らしていくことができるのでしょうか。

障害のある人が地域の中で働き安定した暮らしが保証されるためには、さまざまな支援が必要です。例えば、ニーズに的確に対応した支援の提供や実際に障壁になっている問題の解決をはかるためには身近な地域における労働・福祉・医療・教育等の関係者が共通認識を図り、各関係機関が密接に連携した「総合的な支援」を計画的、継続的に実施するためのネットワークが不可欠な要素といえます。

障害のある方の雇用、就業相談を開設するにあたっては、社会福祉課と商工・労働関係の産業振興課が連携して取り組むべきだと思います。連携をとって対応することにより、お互いに連携意識が生まれ、より総合的な施策を考えることができます。勿論、相談窓口を開設するにあたっては、これまで障害のあるかたの雇用・就業相談に応じた経験がなければ戸惑うこともあるかと思います。その際には、相談を受けた経験のある方や実際に相談を受けて支援をしている機関から相談員の派遣をお願いをしたり、そのような方たちからどのような対応をすればいいかを研修会を開くなどして、考えてもよいと思います。

私が印西市に求めているのは、障害者に対してのきめ細やかな就業促進施策の推進や職業生活を支える施策です。障害者自立支援法ができました。その理念を生かすためには、市としてはまず、印西市では障害者の「雇用先の拡大」や「雇用先の確保」に向けた取り組み、「新たな雇用を創出する取り組み」を主体的に行っていくべきだと考えています。

（仮称）平岡自然公園等対策特別委員会が開催されました。

私が委員長を務める同委員会では 2 月 3 日(金曜日)に委員会を開催し、(仮称)印西火葬場の現況、今後の予定について報告を受け、また現地調査を行いました。今後、(仮称)印西火葬場は平成 18 年末の完成を目指し、試運転の後、平成 19 年度当初より供用を開始する予定です。また、墓地は当初 1000 基設置し、建築、分譲は平成 21 年の予定となっています。(最終的には 3900 基整備予定)
 < 建築中の印西火葬場(待合棟部分)

市政報告会を実施します。

市議会会派「市民自治ネットワーク」(ぐんじとしのり、ますだようこ)では以下の日程で議会報告会を開催いたします。お時間があるかたはお越しください。(資料はご用意させていただきます。)

平成 18 年 2 月 19 日(日曜日) 14 時 00 分~16 時 00 分

於：中央駅前センター(2 階 第一会議室) / 保育サービスを行います。

(* 保育サービスを希望される方は事前にご連絡をお願いいたします。)

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。あるべき市政の姿を求めて皆様と手を携えていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

ぐんじとしのり